

むつみ

第49号 2003. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会
第二十六回総会	会長棚木均
永年勤続表彰者	専務理事 高橋豊吉
支部だより	4
年男年女	12
第二十五回全国土地改良大会	17
還暦を迎えて	17
永年勤続	17
田んぼ	17
安積疏水土地改良区	17
磐梯西部土地改良区	17
鈴木和意	12
猪苗代町土地改良区	7
金本久美子	4
今考えていること考へるべきこと	3
十年を振り返って	2
福島県土地連 阿部由紀子	18

表紙写真

渡辺智賢氏

(田村ほ場整備事務所)

農村景観写真コンクール 農業施設の部
「水辺に親しむ子供達」
金賞作品

撮影場所……田村郡船引町



本文は古紙配合率100%、
白色度70%の再生紙を使用しています。

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 棚木 均

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様にはお健やかな新年を迎えたこととお慶び申し上げます。

今、日本は農業のみならず大変な状況になっております。

不況、リストラ、倒産等々、又農業においても米価の下落、天候不順による不作、品質低下による収入の減少、更にコメ政策改革大綱の決定によって農家自らが生産調整をすることになります。

このことから、コメの産地間競争が益々激化し、消費者ニーズに答えられない産地は淘汰されることになりかねないと予想されます。この状況を乗り切るために、土地改良事業によって整備された土地と確保された豊かな水を活用し、造成された施設によって維持管理経費の節減を図り、安全で安心できる食料を安定的に供給する事ができれば産地間競争に勝てると確信するものであります。

昨年、元土地改良事業団体連合会長伊東正義先生の銅像建立のお手伝いをさせていただきました。趣意の中に「その人柄は、誠実にして

剛直、すべての人々に信頼され、……清廉にして名利を求めることが……」「ならぬものはならぬ」と記してあります。この言葉は土地改良区職員にも当てはまるものではないかと思つております。

組合員に対しては、真心と誠意をもつて対応し、私利私欲を捨て、組合員の立場に立ち、要望や要請等があれば出掛けといって相談にのり、出来ることはするというのが土地改良区職員としての職務だと私は考えます。

申し遅れましたが、私は第二十六回総会に於いて、松本前会長の後を受け、会長に選任をいただきました。

会長の大役は私にとりまして大層重荷ではございますが、役員の方々、会員皆様のご協力を頂きながら本協議会発展のため努めて参りたいと存じますので宜しくお願ひいたします。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして、最良の年になりますことをご祈念申し上げましてご挨拶といたします。

新年のご挨拶



福島県土地改良事業団体連合会

専務理事 高橋 豊吉

として一般の方々に親しまれるよう啓発活動を展開して参ります。
また、平成十五年度の政府予算が昨年十二月二十四日に閣議決定されたところであります。昨年度にも増して農業農村整備事業予算是、公共事業の抑制に伴い、昨年度当初予算比で4・9パーセント減の八千七百八十九億円となっており、非常に厳しい状況となっております。
しかし、農業・農村は食料の安定供給は勿論のこと国土の維持保全などの多面的機能を有しております。今後とも地域住民のご理解を得ながら守り育てなければならないものと考えるところであります。

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健闘で輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

日頃より、土地連の業務及び農業農村整備事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。
さて、昨年より、土地改良区の果たす役割を地域の方々に広くご理解頂くため、二十一世紀土地改良区創造運動を開催しており、運動の一環として昨年の十月二十九日宮崎県で開催された「第二十五回全国土地改良大会」で土地改良区の愛称が決定されました。

決定された愛称「水土里ネット」は、人、物、情報のつながりによって、地域住民や都市住民と連携し、農業用水、農地、農村空間を創造し、更には有機性資源の農地への還元による循環型社会の構築に取り組む、土地改良区の将来像を表現したものであります。

土地連いたしましても、この愛称を取り入れ「水土里ネット福島」

第二十六回総会は、平成十四年七月四日（木）午後一時三十分より北塙原村裏磐梯高原ホテルにおいて開催された。

松本会長 挨拶



總会は、事務局の開会宣言、松本充弘会長（請戸川土地改良区）の挨拶のあと、永年勤続者表彰が行われ、表彰状と記念品が贈られた。

表彰されました方は次のとおりです。受賞者の皆様おめでとうございました。健康に留意されまして益々のご活躍を祈念いたします。

次に、祝辞を会津農林事務所長吉野正榮様、福島県土地改良事業団体連合会副会長・会津支部長飯野陽一郎様、福島県土地改良事業団体連合会専務理事高橋豊吉様よりいただいた。



祝辞 土地連 飯野会津支部長

議事に入り、議長に会津北部土地改良区の高笠喜市氏を選出した。

議長の挨拶後、議案第一号平成十三年度事業報告について、議案第二号平成十三年度收支決算承認についてが一括議題として出され、事務局の説明、監査員の監査結果報告の後の原案どおり承認された。

次に議案第三号平成十四年度補正予算案については事務局の説明後承認された。議案第四号平成十五年度事業計画案、議案第五号平成十五年度終始予算案について、議案第六号平成十五年度会費・協賛金の額及び徴収方法については一括議題として提案があり、事務局の説明後いずれも原案どおり承認された。



祝辞 会津農林 吉野所長

福島県土地改良団体職員連絡協議会新役員名簿 (平成14年度～平成17年度)

役職	氏名	所属	方部
会長	棚木 均	会津北部土地改良区	会津
副会長	石神 正雄	東根堰土地改良区	県北
//	柳内 喜久子	小川町土地改良区	いわき
//	山田 政昭	県土地連	
幹事	渡辺 浩彰	大玉土地改良区	県北
//	遠藤 正一	安積疏水土地改良区	県中
//	菊地 繁夫	母畑地区土地改良区	県中
//	大木 倉吉	矢吹土地改良区	県南
//	荒井 宏	表郷村土地改良区	県南
//	渡辺 秀雄	塩川西部土地改良区	会津
//	大竹 正夫	会津若松市湊土地改良区	会津
//	小島 貞彦	柳津町土地改良区	会津
//	鈴木 賢一	布藤堰土地改良区	会津
//	遠藤 たか子	原町市土地改良区	相双
//	杉内 憲成	大熊町土地改良区	相双
//	景井 仁志	県土地連	
//	若目田 正雄	県土地連	
監査員	小宅 義孝	四時川沿岸土地改良区	浜通り
//	橋本 一也	安積疏水土地改良区	中通り
//	永峯 真	会津宮川土地改良区	会津



祝辞 土地連 高橋専務理事



議事 高笠議長（会津北部土地改良区）

も原案どおり承認された。
議案第七号役員の改選については、任期満了に伴う新役員候補者の事務局案提示、説明があり、原案のとおり承認された。

彰者表統勤年永

(順不同・敬称略)

十年勤続		二十年勤続		三十年勤続		所属団体名		氏名	
猪苗代町土地改良区	戸ノ口堰土地改良区	母畠地区土地改良区	"	福島県土地改良事業団体連合会	請戸川土地改良区	相馬市土地改良区	鮫川村土地改良区	東根堰土地改良区	梁川町土地改良区
" "	"	"	"						"
金本久美子	皆川直喜	渡部淳夫	高橋千恵	齋藤義夫	中村孝之	森王多恵子	中根達也	高橋正一	三浦宏幸

第26回 布施工部改良圖本職員理詒協議云核



職員業務研修会

○職員業務研修会

総会後業務研修会が行われ、最初に福島県現代詩人会会长村野井幸雄氏を講師に「ここは戦場なるぞ」と題し、会津藩にまつわるご講演をいただいた。

次に、参議院佐藤昭郎氏を講師に「農業農村をめぐる情勢について」と題したご講演をいただき、現在の農業農村整備の課題、二十一世紀の農業農村整備の取り組みなどをお話しㄧだいた。

翌日の現地研修は、猪苗代湖に隣接する「十六橋水門」と「上戸取水場」の見学を行った。

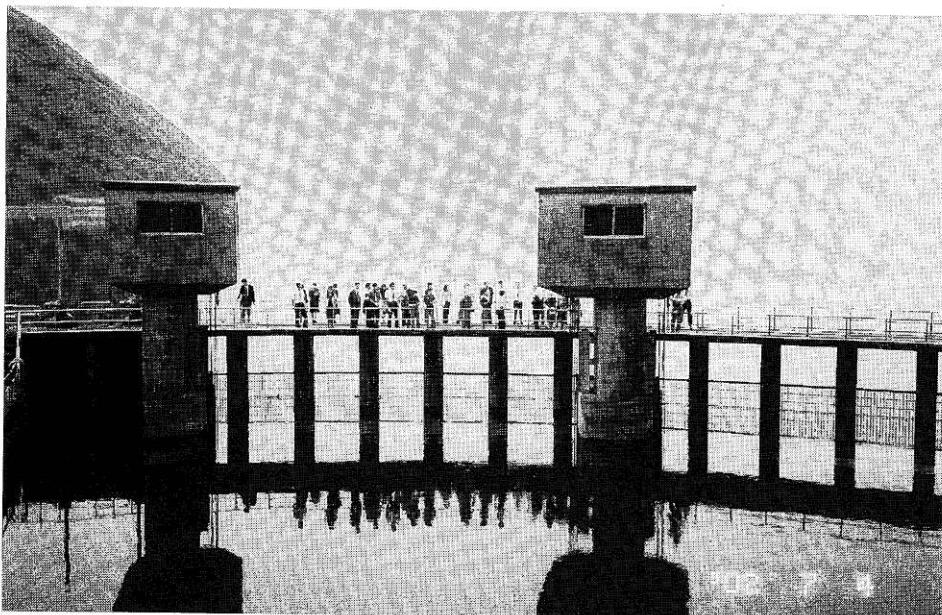


講演 村野井先生



講演 佐藤先生





上戸取水場



十六橋水門

職員研修についてお知らせ

職員研修については、総会でお知らせいたしましたとおり、より参加しやすく、充実したものにしていただけたため、方部ごとの研修として行うこととしました。

協議会より会場費、参加費等の補助がありますのでご活用ください。

支部だより

県北支部

渡辺洋子

職員会議
ホ 県北方部土地改良区職員研修
会（主催者は土改区順番）

県北支部では今年度次のような活動を行っています。

・会員サービス業務

① 資料等直接配布

イ 農林事務所・土地連本部の配

置図及び事務分掌

ロ 原単価表・新しい村づくり等

図書

ハ 土地改良施設安全管理啓発・

写真コンクール等ポスター、カ

レンダー

② 研修会等の開催案内

イ 全土連大会、全国ブロック研

修、東北ブロック研修等

③ 会員訪問

イ 要望、苦情等コミュニケーション

④ 支部主催及び協賛研修会等

イ 土地改良区役員、職員、市町

村担当職員研修会

ロ 農業・農村整備事業研修会

（県外先進地視察研修）

ハ 農業・農村整備事業担当者研

修会

二 土地改良区事務局長及び事務

☆ 参加者 鶴岡支部長外二十一名
平成十四年十一月十四～十五日（木～金） 岩手県へ
・ 景観、生態系に配慮した農地
整備事業の計画と実施
国営、県営、団体営各事業を
研修

参加者 県北農林事務所次長
外三十二名
ホ 平成十四年十一月二十八日（木）
二十九日（木～金） 当番 福島市土地改良区
・ 栗木堰田形分水槽（写真コン
クールポスター）と福島市北部
地区ほ場整備（担い手育成
型）

参加者 鶴岡支部長外二十一名
平成十三年度より土地連上町ビ
ルへ移り、会員の皆様には大変ご
不便をおかけして申し訳ありません。
やかに執り行われました。

ん。

県・土地連本部と会員の皆様方

とのパイプ役（便利屋）として思
うように力が發揮できず気はせき
心は焦るばかりです。

今後とも皆様の御指導、御協力
をお願い申し上げます。

近くへお出かけの際は、是非当
支部へお立ち寄り下さい。

県中支部

吾妻正敏

安積疏水土地改良区理事長・県土
地連副会長・県中支部長 橋本丑恵

氏（七十九歳）におかれましては、
昨年十一月六日にご逝去されました。
告別式は安積疏水土地改良区・橋本
家合同葬によりまして十一月十日に、
郡山斎場において、故人の遺徳を偲
ぶ多数の参列者に見守られ、しめや
かに執り行われました。謹んでご冥
福をお祈り申し上げます。

また、昨年十二月八日県土地連副
会長・前新地町長 荒和英氏（七
十五歳）ご逝去されました。告別式
は新地町・荒家合同葬によりまして
十二月十二日新地町総合体育館にお

いて多数の参列者に見守られ、しめ
やかに執り行われました。

あらためて橋本・荒両副会長様のご冥福をお祈り申し上げます。

県南支部 真船素子

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。県南支部だよりについて事務局より寄稿依頼がありましたのでお知らせいたします。

支部の区域は、県南農林事務所管内です。

会員は、市町村十一、土地改良区十六、農業協同組合一合計三十の会員構成となっております。

事務所は、矢吹原土地改良区内にあります。職員は、矢吹原土地改良区六名、矢吹西部土地改良区一名、土地連県南支部一名、合計八名の職員で、和やかな雰囲気で仕事をしております。

主な業務の内容としま

しては、本部から会員へ、会員から本部への連絡等です。

それから、市町村担当



者及び土地改良区役職員の研修会さらには、県外の視察研修を実施しております。因みに今年度は、秋田県能代地方の農業農村整備事業を視察研修をしました。

また、当管内には、県南地方土地改良区事務局連絡協議会がござります。設立は、昭和五十九年で研修会等を実施し、会員相互の親睦を図っております。今年度は、会津地方を視察研修をしてきました。建立したばかりの伊東正義先生の銅像の前で記念写真を撮ってきました。

矢吹町周辺の土地改良区の職員で作っております「土地改良区友の会」がございます。

会津支部 永嶋千代子

【愛】と【汗】と

【愛なき人生は暗黒なり】

【汗なき社会は墮落なり】

私が、土地改良事業にお世話をなっておりまして、二十七年が過ぎようとしております。

始めて、土地改良区で事業に関わった頃は、農業生産性の増益を目指として進められた感じがいたします。

農家の方々や、土地改良区の職員の皆さん方の、農業についての積極的な意欲や、土地改良事業への理解が良く得られたように思われます。

でも、今、問われている農業の実情は、安全で安心な食への提供・豊かな自然・美しい景観・環境整備・更に収益性を求めた農業経営のあり

OBにも声を掛け飲み会等を実施し楽しい一時を過ごしております。

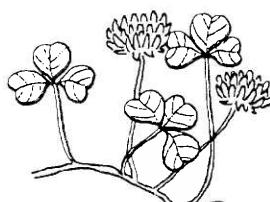
土地改良区の愛称も「水土里ネット」と決まりより一層の輪を広げPRをして行きたいと存じます。これからも皆様のニーズ応えられるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

かからも皆様のニーズ応えられるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

そして、水と土を愛するために、全ての人々が「汗を流す」努力こそが、私達が今求めている「里」創りであるように思います。

地域の中、「一体性をもちながら………」「支えあいの愛」と「助けあいの汗」こそが、これから農業に元気と勇気を与える、よりよい「里」創りの架け橋になるように思います。

こんなことを、一人でも多くの方と出会い、語り合えたら………と思う今の私です。



南会津支部

藤澤久美子

おいしい水・土・里にはぐくまれ、お陰様でちょっと太め、賑やかで元気な支部職員の藤澤です。研修会等でお会いしておりますが、土地連に昭和五十二年四月採用後、二十五年間変わらない私の美貌と体型を思い出してください。

さて、南会津支部（私の住んでいる南会津）を紹介したいと思います。

南会津は、福島県の南西部に位置し、土地改良区は田島町・下郷町・館岩村・伊南村・南郷村・只見町（三町三村）で構成しており、組合員数は四千五百三十六名です。

総面積は、神奈川県とほぼ同じ面積（二、三四一・六四km²）気候は、夏期は内陸型で涼しく、冬期は典型的な日本海型で、有数の豪雪地帯となっています。

また、山間部にあり多様な樹林地域があり、四季の変化がはつきりしているところから山の紅葉がすばらしく、中でも、秋の尾瀬湿原及び登山ルートの周辺は、色鮮やかで、思わず心をなごませてくれます。

人口は、面積が広いにもかかわらず、約三万五千人と少なくて、全域で高齢化及び過疎化が進んでいます。

農産物の特産品は、高冷地の気象等を活用した、トマト・アスパラガス・リンゴ・宿根カスミソウ等の野菜、園芸作物があり、中でも南郷トマトは全国的に名が売れ、出荷量も一段と増加しています。

また、林産物も、天然ナメコ・マイタケ・ワラビ・ゼンマイ等種類が多く、春から秋にかけて豊富に産出されています。

次に、山岳地域を活用した温泉の分布が多いことで、多数の宿がある温泉地は少ないものの、秘湯と言われている自然に囲まれたひなびた温泉が大半です。

支部事務局は、県田島合同庁舎駐車場北側にある行政センター内におり、近年のコンピューター導入による事務も軌道に乗ったことから、行政情報があふれており、さらに事務の流れが迅速になっていることから、その速さに驚きとため息をついています。

そんな中、支部として、定例総会を開催して年間行事計画を定め、本部行事施行への資料等の提供、並びに支部独自として、近年めまぐるしく変化する農業農村整備事業等の情報の提供、会員の技術力向上を期す研修会の開催を行っています。

その他、全国の農業基盤整備の先進地域における、実施及び農家経営の取組等を研修し、本地域の農業技術の研摩に大いに寄与しているところです。

現在は、二十一世紀となり新しい時代を迎え、支部の業務背景となる、県における当地方の農林水産業の目標も定まり、土地改良運営の目標となる整備指針として「うつくしま農村整備プラン21」が制定されました。

当方は、「豊かな自然を生かした園芸生産とやすらぎの里づくり」をテーマとして農業振興を図り、中核をなす農業農村整備事業は、農業集落の道路、水路、水質汚濁防止の整備を中心とし、産業地域と生活環境の改善を図る中山間整備事業を中心とし、産業地域と生活環境の改善を図ることになりました。

また、行政事務のスピード化、及び交通・通信の高速化により、業務エリアの拡大化され、当支部としても平成十一年度からは、会津支部のご理解とご協力を得て、合同で研修等を開催しているところです。このため、本部支部間の伝達距離も大いに狭まり、県一体となつた感じがしております。

当地方の農地整備率は、西部地域のほ場整備の施行が進んだところか

ら、八〇%以上となり、旧区画の地域のわずかな面積で限られた地域となりました。

今後は、造られた施設を高度に利用していく時代と言われています。支部としても、山間狭作地域という特殊地域であることを認識し、会員の皆様方の円滑なる農業経営が維持できるよう、微力ではありますが支援していきたいと存じます。

大自然に囲まれた、南会津の酒・水は一味違います。お寄りの際は是非味わってみて下さい。

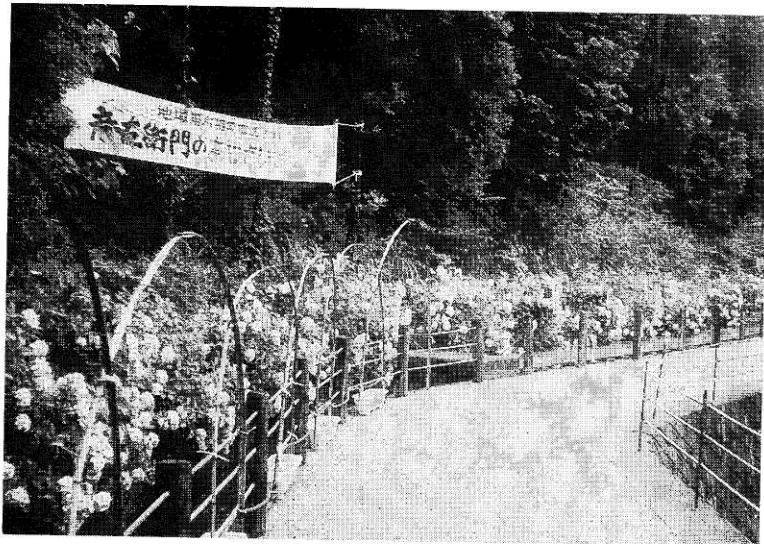


**相双支部
阿部照子**

**相双地方土地改良区
事務局長連絡協議会研修会**

この協議会は、相双地方十六土地改良区にて平成二年に設立され現在は合併等により十三土地改良区にて運営しております。

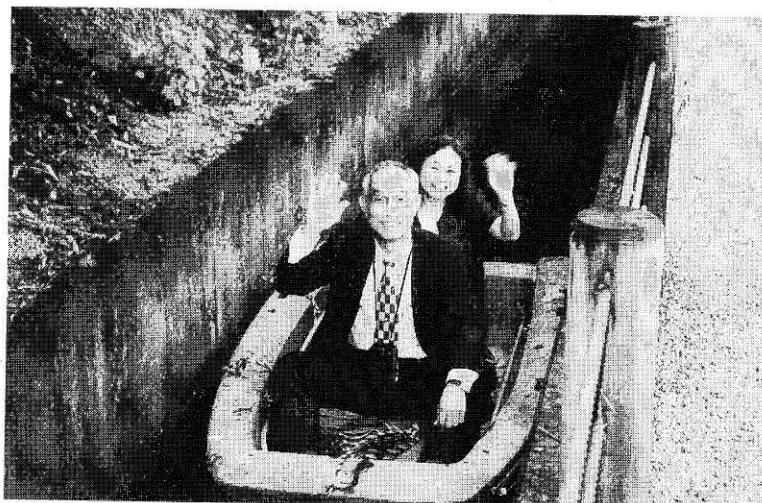
土地改良区の健全な発展と互いの親睦融和を図ることを目的に発足いたしました。



あじさいの小径

今年度（平成十四年度）の研修は「これから農業農村整備と土地改良区の役割」と題して「ふるさと水と土保全対策活動について」

三重県多気郡勢和村、立梅用水土地



立梅用水を利用したボート下り 高木会長と

たしました。

現在会長は、櫛葉町土地改良区の高木

局長さんが就任しており、私はその事務局をしております。

改良区管内を研修いたしました。

立梅用水は開設されて百八十年の歴史を持つ用水で現在は組合員数は六百六十名です。

立梅用水土地改良区は、「ふるさと水と土保全活動」を通して土地改良区と行政、その他各種ボランティア団体が農村地域

資源を多面的に活用した活動が認められ、平成九年度に「豊かなむらづくり」において農林水産大臣賞、又平成十二年には、三重県環境功労賞等受賞しております。

研修内容は、地域用水機能増進事業のソフト事業を中心、立梅用水土地改良区が地域住民と一体になつ



ここで田んぼのコンサートが開催されます。

又、現地においては地域用水機能増進活動の一環である、用水沿に土地改良区とボランティアが植栽した、あじさいの小径を散策しました。ふるさと水と土保全活動については、休耕田を活用した「農村のビオ

イドにて紹介され、二十一世紀土地改良区創造運動にかかる土地改良区の新たな役割について意見交換を行いました。

トプ」（ホティアオイとメダカ）を観察しました。又イベントにおいては、子供、大人も大好評である立梅用水ボート下り、これは用水路を三百メートル程下り先人たちが大変苦労して掘ったと言われる「素堀りのトンネル」を七十メートル体験し、農業用水を多面的に活用した体験を通じ、農業用水の歴史や現状に触れ、その役割や大切さを体感すると言うことで私達もそのボート下りを体験させていただきました。

ほかに立梅用水を利用した、田んぼのコンサート、田んぼの網引、ます釣り大会、あじさいまつり、立梅用水ウオーキング等、年間を通して里山の四季を楽しみ、都市と農村の交流が図られ、地域に密着したイベントが多いことにおどろきました。

二十一世紀土地改良区創造運動と言ふことで、土地改良区が果たしてきた役割、機能を改めて見直すとともに地域住民が期待する新たな役割にどのように取り組んで行くか……。

はもちろん、県からも参加いたい

この研修会の出席は職員全員参加修だったと思います。

女性職員研修会について

相双管内では、平成七年より女性職員を対象とした研修会を開催し、地位の向上と親睦を深めております。当管内には現在十三の土地改良区がありますが、女性が配置される（臨時職員は除く）改良区は八団体で十名です。

年令は三十歳～五十歳と巾がありますが、皆さんそれぞれ第一線でがんばっております。

同じく管内に務めて居ても仲々集まる機会に恵まれず、ぜひととこうとでこの研修会が開催されることになりました。

講師には、農地事務所長（旧）、支部長さん、副支部長さんと色々ですが、昨年度は前土地連副会長、黒沢様に「農業農村整備と女性の役割」と題して約二時間ほどお話しをいたしました。又黒沢様には昨年より福祉関係の仕事もされており、高齢社会において女性の役割がいかに重要であるか等についても、お話しいただき、一同時間を過ぎるのも忘れる様子を見聞したことは、これから

たどり、一同聞き入っておりました。

いわき支部 高木キミ子

年度末を控え何かと忙しく成りましたが、「相双から光を……」とキヤッチフレーズに相双女性の浜パワーで頑張っていただけたら幸いと思いま

たこともあり、互いの親睦を深め、仕事上の疑問、なやみ等を話し合い、日頃のストレスを解消していただければと思います。

又昼食を囲み、女性ならではの話に花を咲かせ、一同満足し、近年の土地改良区を取り巻く厳しい状況も一時忘れ明日への活力としていただきました。

支部長様初め、職員の皆様方に心温まる言葉を賜けていただき、和やかな雰囲気で仕事をしております。それでも二階にて一人、ちょっとひとり寂しいものです。

また、管内土地改良区職員の方々からも、暖かい言葉を賜けていただき大変感謝致しております。

主な業務の内容としましては、本部から会員へ、会員から本部への連絡調整です。

年間行事として、各土地改良区理事長の研修会、市担当者及び土地改良区の職員研修会、並びに会員の県外視察研修を実施しております。

今年度は、岩手県三王海土地改良区内の、国営三王海農業水利事業、三王海ダム視察を市職員、各土地改良区職員の多数の参加者を得て、私としては、大きな成果があつたものと自負しております。

「水土里ネット」の趣旨にのつとり、改良区の一部には新しい道の模索が始まりつつあります。

今後の活動について、微力ながら側面より応援したいと考えております。

二階一室にあります。

改良区の理事長と、職員は四名です

事務所は、鮫川堰土地改良区内の、

第25回 全国土地改良大会 宮崎県で開催

平成14年10月29日、第25回全国土地改良大会が宮崎県宮崎市シーガイア「ワールドコンベンションセンターサミット」において、「今、日向の里より飛翔たつ農の未来」をテーマに本県が176名の参加も含め、3,600名の土地改良関係者が参加し盛大に開催された。

大会は、岩橋宮崎県土地連副会長の開会挨拶、国歌斉唱のあと、主催者を代表して梶木全土連会長から「農業農村、そしてそれを支える全国数千の土地改良区が国民に果たしている役割がいかに重要であるかを、国民に対してより一層強くアピールしていくたいと考えている」旨の挨拶に続いて、松形県知事より開催県挨拶、津村宮崎市長が歓迎のことばを述べた。来賓祝辞では、大島農林水産大臣（代理太田副大臣）と緒嶋宮崎県議会議長が大会の盛会を祈念して祝辞を述べられた。

また、土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰48名の表彰が行われた。

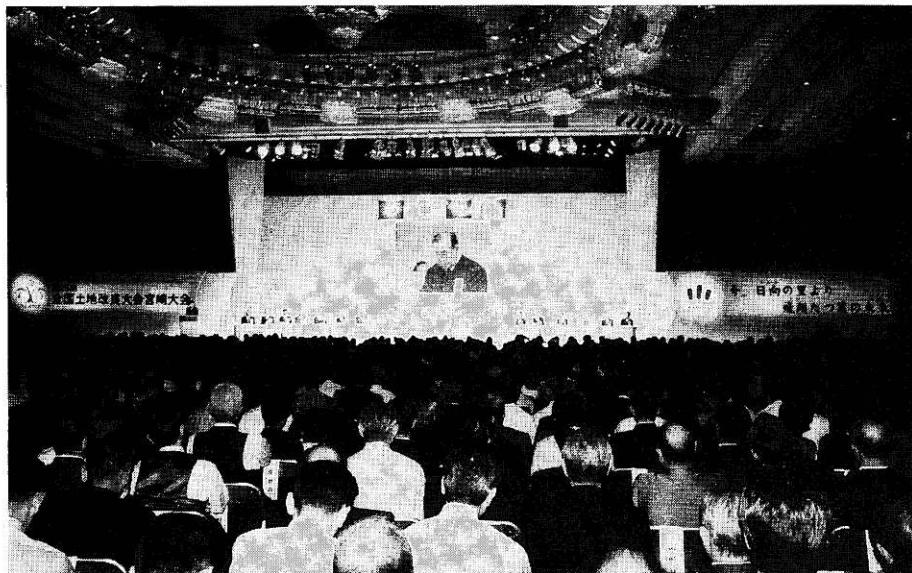
本県からは、会津大川土地改良区歌川守理事長が農林水産省農村振興局長賞を、磐城小川江筋土地改良区中根久守理事長が全土連会長賞を受賞された。

次に、土地改良区の愛称が発表され、全国から応募された22,254点の中から「水土里ネット」と決定したことが発表された。

続いて、太田農林水産省農村振興局長（代理北原農村振興局次長）による基調報告が行われた後、宮崎県立農業大学校生徳井忠昭さん、蛯原后子さんが新しい農業・農村の創造に向けて邁進する旨の大会宣言を行い、次期開催県である吉川愛知県土連会長への大会旗の引き継ぎ、吹田全土連副会長の発声による万歳三唱、井上宮崎県土連副会長の閉会挨拶で式典は盛会裡に終了した。

なお、第26回全国土地改良大会は、平成15年10月15日（水）愛知県名古屋市総合体育館において、「水と土の愛を知り、共生につたえる農の夢」をテーマに開催される予定です。





農林水産省
農村振興局長表彰 受賞
歌川 守 氏



全土連会長賞 受賞
中根 久守 氏

大會宣言

「農は国の礎」、この国に人が生を受けて以来、先人は、未墾の大地を開墾し改良を続け、今、我々が目にする「稔りの大地」を造り上げた。大地は、田へ水を引く村人の営みと、収穫を祈り鍬をふるう人々の手によって、我々の生存の糧となる食料を生み出し続けてきた。この「稔りの大地」は、全国を網の目のように張り巡らされた水路網と共にあり、農村の「水と土地」は自然環境を保全するなどの多面的機能を發揮し、国民生活に欠かすことのできない社会的共通資本を形成している。

今、我々に課せられた使命は、食料・農業・農村基本法の理念のもと、安全で安心な食料を安定的に供給する「稔りの大地」の改良を続け、水の循環と共にある大地に営々と蓄積されてきた力を最大限に發揮することにある。加えて、この大地を、多様な生き物を育み、国民の豊かな心を育てる美しい田園空間として創造し、21世紀の農村振興の礎を築くことにある。

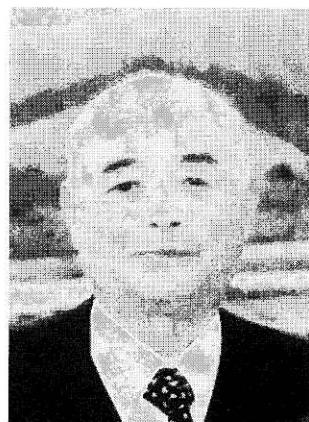
本日、土地改良区の愛称が発表された。我々

は、この愛称の決定を契機に、時代とともに、地域とともに歩む土地改良区を目指して、「21世紀土地改良区創造運動」を飛躍的に進めて行く。土地改良区によるこうした運動の重要性は、来春、我が国で開催される「第3回世界水フォーラム」の議論の主要なテーマでもあり、この機会に世界に向けて積極的に情報発信しなければならない。

ここ「日向の里より、今、農の未来が飛翔たつ」ごとく、国の未来の発展に向けて、この「稔りの大地」を、食の稔りと共に教育や文化の稔りへと結実させ、生命を育む礎とし、次の世代へと引き継ぐため、我々は総力を結集して新しい農業・農村の創造に向けて邁進することを、ここに宣言する。

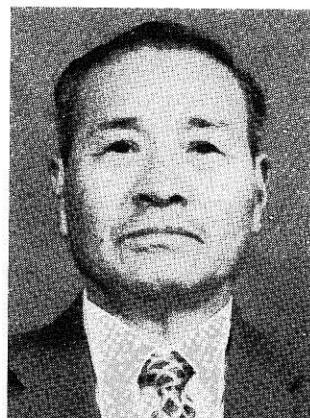
平成14年10月29日

第25回全国土地改良大会



☆全國土地改良事業団体連合会
会長表彰
中根 久守 氏

磐城小川江筋土地改良区理事長



☆農林水産省農村振興局長
表彰
歌川 守 氏

福島県土地改良事業団体連合会監事
会津大川土地改良区理事長

土地改良功績者



みどり 『水土里ネット』



この愛称、次のような意味を表しています。

- 「水」は、農業用水、地域用水
- 「土」は、土地、農地、土壤
- 「里」は、農村空間や農家・非農家の生活空間

「水土里」(みどり=緑、グリーン)には“自然”“環境への影響を少なくする”などの意味があることから、豊かな自然環境や美しい景観を意味し、おいしい水、きれいな空気など清廉なイメージを表現しています。

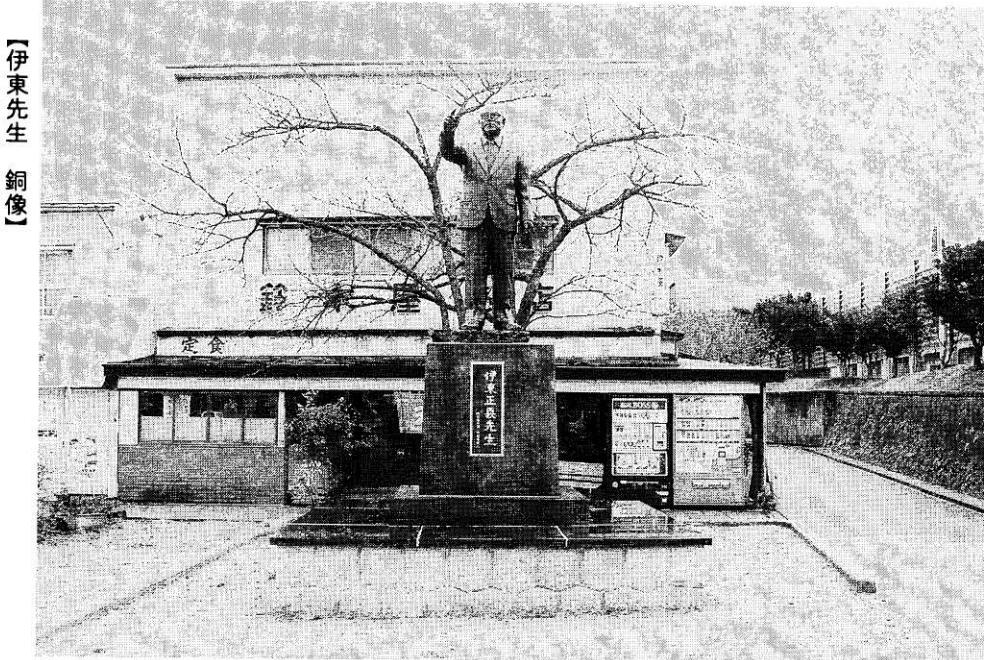
「水土里ネット」は、全国40万kmに及ぶ水路などのネットワークや、人、物、情報のつながりにより、農家ののみならず、地域住民や都市住民と連携して、国民共有の財産である美しい農村を創造する役割を果たしていくという意志であり、将来に向けた土地改良区の役割と姿を表現しています。

伊東正義先生の銅像が完成



【伊東先生 除幕式】

土地連前会長伊東正義先生の銅像
が、地元会津若松市の鶴ヶ城三の丸
入口に完成し、平成十四年十一月三
十日に除幕式が行われました。
会津にお出かけの際はぜひお立ち
寄りください。



【伊東先生 銅像】



還暦を迎えて

磐梯西部土地改良区 鈴木和意

一〇〇三年を迎える心からお祝を申し上げます。

土地改良区の職員と共に歩んできた機関紙「むつみ」への寄稿依頼が届き、何を題材にしたらよいのかと迷ってしまいました。

土地改良区に勤務して二十六年の歳月が流れ、振り返ってみればもう還暦の年となりました。六十の声は「もう年かな」という気力の老けを感じるものです。「還暦」とは再び生まれた干支に還るという意味が込められ、老けというより熟年の第二のスタートと考えれば、まだまだ、これからが地についた豊かな心を磨き、「社会に役立つ人生を」と意を新たにするものです。

さて、この長引く大不況の中、農業、農村、地方の自治はどこへ行き付くのか混迷な環境がつづいているようです。この様な中で多くの皆さん、土地改良区の将来に温度差こ

それすくなく不安を抱いていると思います。

二十世紀は農業の曲がり角と高度経済を背景に、農業の機械化による労働生産性の向上と米づくり過重の解消を図るを目指とした、基盤整備事業の華やかなる土地改良区の出番があり、改良区の社会的地位とその貢献は、後世に承継されなければならぬと思います。二十一世紀となつて、内外ともに土地改良区の有り様が問われる変革のときにさしかかり、

昨今の土地改良区は、ハードの時代から創造の時代を迎え、各地区では地域に根ざし、農業を柱としたさまざまな事業が取り組まれています。農業、農村には素晴らしい自然環境があり、個性ある文化が息づいてい

昭和二十四年→私の誕生＝土地改良法制定との縁で、五十余年過ぎました。

昭和三十年頃、桑畑をトロッコやモッコ、ツルッパン、スコップ等で田んぼ造りに励んでいました。

三月下旬になると、田んぼに堆肥まきしたところを馬や牛で田耕したり、苗代造り、堀さらい、そしてもみひたし、種まき…骨休みは、小中学校の入学式、月一回のかみごと、春祭りでした。五月下旬から六月中旬になると、たろぐろ搔き、かじとりのあとを稲植え、たぐるまで田の草取り、よせがり、秋になると、稻刈り、ぼうばせたて、稻こき、もみすり、馬車につけて出荷、筵作り、俵作りと一年中農作業でした。

昭和四十七年に就職しました。高速道路関連事業、国営灌漑排水事業、それに伴う関連事業として、かんがい排水事業（県営、県単、団体営）

永年勤続

田んぼ

安積疏水土地改良区 山口完治

ほ場整備事業（県営、県単、団体営）等で田んぼが田園に変貌し、小鳥の鳴き声や動物の話し声がマシンの音へと変わってきました。

しかし、農業農村環境整備（農業生産のための基盤を整備、農村生活環境を整備、農地及び農業施設の保全と管理）事業を積極的に県及び各市町村が協力し前向きに促進し行けば、「どじっこだのふなっこだのあらわれんだべな」。

あと、数年の勤めを「白い雪は白」「七色の虹は七色」精神で精一杯務めたいと思います。



今考えていること考へるべきこと

猪苗代町土地改良区 金本久美子

土地改良区へ入ってからまる十四年が過ぎました。農家のことは何も解らず、毎日が緊張感の連続でした。昭和六十三年より県営ほ場整備事業に取り組み、役職員の度重なる入れ替わり、更には土地改良区の合併問題、その後も続く様々な問題等、私達猪苗代町土地改良区の職員は大なり小なり同じ悩みを抱え現在に至っております。

猪苗代全域に亘る県営ほ場整備事業の展開、それに伴う組合員とのトラブル、一人一人の取り組み方の違い。又地区間の違い。何が一番いいのか。又組合員の利益を考えどうすべきなのか。対応としてはなはだ不十分であるが、漸く事業のほぼ完了に向かえ、今更ながら考えさせられます。

主体的に物事を捉え、主体的に係る。それには皆の考え方を出し合える環境がないと問題が共有化できないし、積極的な土地改良区運動も生まれてこないと思う。事業が完了し、田や水路を維持していくために、私たちは何をしなくてはいけないので

しょうか。補助金を当てにするだけではなく、自らの創意工夫で土地改良区より地域へ、行政へ問題提起をすることと、新たな土地改良区のあり方を模索し、幸い今は組合員の利益に繋がるよう運動していきたい。私の頭の中には組合員の負担軽減をいかにすべきかが切実な問題です。

仕事の面では、ほ場整備から集落排水の仕事へ、あまり深く考えることもなく言われた事を、言われたようにしてきました。平面の上でしか仕事を見ていなかつたような気がします。

ところが、実際に外に出て自らの目で仕事に携わって、いろいろな人に会つてから、仕事が平面だけでなく立体的に見えてきました。

現場に出て見ることがいかに大切かを知りました。

プライベートでは、結婚、出産、子育てです。親になった喜びと責任とともに子供を持つて初めて、両親への感謝と両親の苦労を思いました。子供を育てていく上で、子供にいろいろなことを教えられ、時には、自

「十年を振り返つて」

福島県土地連 阿部由紀子

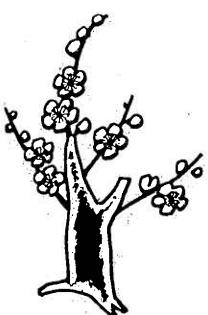
分の未熟さに気がつき、反省の繰り返しです。

十年が過ぎ、これからも仕事でも子育てでも四才のわが娘といっしょに成長していくこうと思います。

寄稿依頼の文書が届いた時には、「私が！」と思うと同時に、十年という時間の長さと、短さを感じました。

この十年、何となく過ごして來たような気もしますが、公私ともどもいろいろなことがあつた十年でもあります。

仕事の面では、ほ場整備から集落排水の仕事へ、あまり深く考えることもなく言われた事を、言われたようにしてきました。平面の上でしか仕事を見ていなかつたような気がします。



“ 土地改良事業に関する業務は 土地連がお手伝い ”

土地改良事業を行う会員の協同組織である県土地連は、土地改良事業の適切、かつ、効率的な運営の確保及びその共同の利益を増進することを目的とし、誠心誠意をもって、次に掲げる事業をお手伝いしております。

1. 技術的援助

- (1) 測量調査設計 (2) 実施・変更・出来型設計及び施工管理 (3) 確定測量
- (4) 換地計画及び登記申請書作成等の受託

2. 相談及び指導

- (1) 土地改良事業に関する相談及び農業基盤整備資金に関する指導
- (2) 土地改良管理指導センター
 - ・土地改良施設の管理に関する技術的な診断、指導
 - ・土地改良施設維持管理適正化事業に関する助言、指導
- (3) 換地センター
 - ・土地改良事業に関する換地事務の推進
- (4) 農村総合整備センター
 - ・農村総合整備事業の啓蒙普及及び技術の向上、指導

3. 電算処理

- (1) 土地改良事業工事費積算業務 (2) 換地業務設計及び経費積算 (3) 確定測量業務
- (4) 水文 (5) 水収支 (6) 土地改良区の賦課業務 (7) 各種土量計算



みどり
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

会長 佐藤 栄佐久

〒 960-8502 福島市南中央三丁目36番地
TEL 福島 (024) 535-0371(代表)
FAX 福島 (024) 535-1200
ホームページアドレス <http://www.f-tochiren.or.jp>